



北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor*

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	佳木斯大学との国際交流事業について
Author(s)	小塚, 直樹; 佐々木, 健史; 後藤, 葉子; 乾, 公美
Citation	札幌医科大学保健医療学部紀要, 第 13 号: 113-115
Issue Date	2011 年
DOI	10.15114/bshs.13.113
Doc URL	http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6375
Type	Journal Article
Additional Information	
File Information	

- コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
- 利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- 著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

佳木斯大学との国際交流事業について

小塚直樹¹⁾・佐々木健史¹⁾・後藤葉子²⁾・乾 公美¹⁾

¹⁾ 札幌医科大学保健医療学部理学療法学科

²⁾ 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科

札幌医科大学では、北海道と気候風土の似通った地域にある海外各国の大学と協定を締結し、積極的に学術交流を進めている。1977年にフィンランドの大学との医学交流協定を締結して以降、カナダ、中国、アメリカの諸大学とも同様の交流提携を締結し、研究者の相互派遣など、各種の交流活動を進めてきたが、2008年には中国、佳木斯大学との交流協定を締結した。

本報告は、佳木斯大学との交流の実績を紹介すると共に、今後の展望について述べることを目的とする。

キーワード：国際交流事業

佳木斯大学

International Medical Exchange Program with Jiamusi University of China

Naoki KOZUKA¹⁾・Takeshi SASAKI¹⁾・Yoko GOTO²⁾・Kimiharu INUI¹⁾

¹⁾ Department of Physical Therapy, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

²⁾ Department of Occupational Therapy, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

Sapporo Medical University has actively been promoting mutual exchange programs with overseas countries whose climate and living conditions are similar to those of Hokkaido in order to improve the health and welfare of people living in these regions. Since 1977, the University has established mutual medical exchange programs with universities in Finland, Canada, China and the United States. Additionally, an exchange program with Jiamusi University of China was initiated in 2008.

The aim of this report is to show the achievements of the medical exchange program with Jiamusi University and suggest our future plans for this program.

Key words : international medical exchange program

Jiamusi University

Bull. Sch.Hlth.Sci.Sapporo Med. Univ 13:113-115(2011)

I 佳木斯大学の概況¹⁾

佳木斯大学は1947年に黒竜江省佳木斯市に創立された総合大学である。設置されている付属学院22院と1学部を擁し、総建築面積は84.13万平方メートル、大学の総敷地面積は149万平方メートルと広大である。黒竜江省の中でも多くの専攻学科を設置し、その規模も大きい総合大学である。さらに中国衛生部リハビリテーション人材養成センターと黒竜江省全科医学養成センターも設置されており、中国国内のリハビリテーションの拠点施設の一つとなっている。

佳木斯大学は創立時より一貫して科学発展と国際提携という運営方針を持っている。アメリカ、ロシア、日本、韓国、イギリス、シンガポールなど11カ国、26校の大学と友好関係を築きあげてきた。

II 交流の歴史的背景と実績

1. 北海道と黒竜江省との関係

昭和57年(1982年)、佳木斯大学医学院、李樹春教授から小児療育の全般に関連する資料提供の依頼と講師派遣の要請があり、翌年、北海道立肢体不自由児総合療育センター(現在の北海道立子ども総合医療・療育センター)に所属する小児科医師と理学療法士が派遣された。また同年に佳木斯大学から、1名の小児科医師が派遣され、同上センターで受け入れている。昭和61年(1986年)には、北海道(保健衛生部)と黒竜江省(衛生庁)との間で友好提携議定書の調印が行われ、北海道立肢体不自由児総合療育センター、北海道立旭川肢体不自由児総合療育センター、札幌医科大学(小児科学講座)と佳木斯大学医学院との間で、医師、理学療法士、作業療法士の医療技術発展に関する交流が開始された。昭和62年(1987年)には佳木斯大学医学院附属脳性小児麻痺防治療育センターが開院し、佳木斯大学側の交流拠点はこの施設へと移行した。平成元年(1989年)には、昭和61年(1986年)に調印された友好提携議定書による交流を引き継ぐ形で中国黒竜江省療育技術交流事業が開始、平成10年(1999年)までの間に、北海道から小児科医師および理学療法士・作業療法士31名を派遣、黒竜江省から小児科医師10名を受け入れることとなった。

平成13年(2001年)、佳木斯大学康復医学院が開設されるとともに、技術者ではなく教育者の交流支援が火急の課題となった。

2. 本学と佳木斯大学との交流

平成12年(2000年)、佳木斯大学康復医学院の開設準備にともない、教員に対する教育支援の必要性が生じ、「療育技術交流」から「人材養成支援」へと交流事業内容の変更があり、特に本学保健医療学部にも協力の要請があった。平成13年(2001年)11月、佐藤学部長、乾教授、吉田主幹、佐藤通訳(全て当時の職位)らにより、佳木斯大学の調査

が実施された。その調査に基づき、平成14年(2002年)2月、「日本国北海道保健福祉部と中華人民共和国黒竜江省衛生庁とのリハビリテーション技術及び理学療法・作業療法に関する人材養成事業覚書」の交換が行われた。

3. 覚書の内容

札幌医科大学保健医療学部からは、「2002年4月～2004年3月までの2年間に、毎年2回、毎回2名の教員を派遣する」、佳木斯大学康復医学院からは、「2002年4月～2004年3月までの2年間に、教員及び教員候補者が毎年1名ずつ派遣され、本学の訪問研究員として受け入れる」という内容であった。

4. 覚書に基づく交流事業の実績

交流の実績は以下の通りである。

派遣(全て当時の職位)

平成14年(2002)7～8月、乾教授、田中助教授、小塚助教授、青山助教授

平成15年(2003)3月、高柳助教授、中村助教授

平成15年(2003)7月、SARSのため中止

平成16年(2004)2月、石川助教授、小塚助教授、仙石助教授

平成16年(2004)3月、吉尾助教授、池田助教授

受入

平成14年度、李海華医師(理学療法学科受け入れ)

平成15年度、孫穎医師(作業療法学科受け入れ)

5. 覚書に基づく事業終了後の交流(全て当時の職位)

平成14年(2002年)に締結された覚書に基づく交流事業が終了した後も、佳木斯大学側からの強い要請により、以下の交流が継続された。

平成16年(2004年)7月、第1回中国小児リハビリテーション学会(黒竜江省佳木斯市)に出席し特別講演(乾教授、小塚助教授)、中国脳卒中康復医学高級検討班会議(黒竜江省哈爾濱市)に出席し、特別講演及び実技指導(乾教授、小塚助教授)を行う。

平成17年(2005年)8月、佳木斯大学康復医学院への教育・診療支援(乾教授、小塚助教授)を行う。

平成18年(2006年)7月、第2回中国小児リハビリテーション学会(湖南省長沙市)に出席し、特別講演(小塚教授、大学院生)を行う。

平成18年(2006年)8月、教育・診療支援(宮本教授、坪田教授)を行う。

平成19年(2007年)3月、朱曉峰副学長、李曉捷康復医学院長が来学し、今井学長、丸山保健医療学部長と面談し、今後の新たな交流協定の締結を提案する。

平成19年(2007年)8月、教育・診療支援及び学術調査(小塚教授、大学院生)

6. 協定締結後の交流

平成20年(2008年)3月、佳木斯大学において正式に国際医学交流協定を締結した。

その後の実績は、以下の通りである。

派遣

平成21年（2009年）8月に10日間、後藤葉子准教授が呼吸リハビリテーションを主たるテーマとして、教育支援、研究に関する意見交換、学生に対するアンケート調査などを行った（図1）。

平成22年（2010年）8～9月に16日間、佐々木助教が中枢神経障害のリハビリテーションを主たるテーマとして、教育支援、診療支援、研究に関する意見交換などを行った（図2）。



図1

平成21年（2009年）8月に派遣された後藤葉子准教授が、呼吸リハビリテーションについての授業を行っている



図2

平成22年（2010年）8～9月に派遣された佐々木健史助教が、中枢神経障害のリハビリテーションについての診療指導を行っている

受入

平成20年（2008年）10-11月に29日間、彪偉講師（臨床理学療法学講座受け入れ）

平成21年（2010年）10-11月に28日間、孫穎講師（基礎作業療法学講座受け入れ）

Ⅲ 今後の展望

昭和61年（1986年）に北海道（保健衛生部）と黒竜江省（衛生庁）との間で締結された友好提携を礎として、その後、診療支援を基軸とした北海道立肢体不自由児療育施設と佳木斯大学医学院附属脳性小児麻痺防治療育中心との交流へと引き継がれ、現在は保健医療学部と康復医学院との教育支援と診療支援を基軸とした交流が主体となってきた。本学の中期目標（大学教育の国際化推進プログラム）達成の観点からも、今後もこのレベルでの学術交流を継続する必要がある、さらに研究を基軸とした学術交流を特に推進させていく必要があると考える。

佳木斯大学との学術交流において本学の果たす役割は、貢献から協力へとその内容を変容させていく必要性があり、今後の教育研究者の相互訪問を行う中で、共同研究の推進、学部生、大学院生レベルでの交流、国際学術大会の開催なども視野に入れて継続することが必要である。

この国際交流事業が全ての北海道・黒竜江省間の友好交流事業の推進支援の一助となることを願って止まない。

Ⅳ 文 献

- 1) 佳木斯大学ホームページ
<http://www.admissions.cn/jmsu/>